2026.11.02 全校朝会講話

「勇気の人」に！

校長　松本　雅史

おはようございます。

少し前になりますが、運動会お疲れさまでした。

閉会式でも話しましたが、「みんなでできる」「本気を出せる」ということは、実に楽しいことです。

勝ったから楽しかった、負けたからつまらなかったというのは、生き方として豊かではないです。勝ち負けを越えて自分の中に「自分はやったぞ！」という手応えを積み重ねていく人が豊かな人です。

さて、話は変わりますが、先週、こんな嬉しい電話がありました。

> 2026.10.28
>
> 今朝、登校途中の 4～6 年生くらいの女の子数人が、家の前で転んで倒れていたうちのおばあちゃんに気付き、家のインターフォンを押してそのことを知らせてくれました。
> そのおかげで、すぐに救急車を呼んで、病院に連れていくことができました。
> あの子たちも、朝の急いでいる時間だったろうに、声をかけてくれて。助けてくれてありがとうございました。おばあちゃんは、けがをしていましたが、すぐに病院にいけたのでよかったです。

この子たちのお陰で、このおばあさんは助かりました。もしかしたら、この子は、一瞬どうしようかと迷ったかもしれません。声をかけるのに、家の人におばあさんのことを伝えるのに、とても気持ちを振り絞ったことと思います。私は、この時の、この子たちの行動こそ「勇気ある行動」だと思います。「勇気」といっても何か特別のことではないです。

「勇気」は、怖さや不安、失敗の可能性があっても、「正しい」と思うことを実行する行動です。勇気は「恐れがないこと」ではありません。むしろ、恐れを感じながらも一歩を踏み出すことに勇気があります。

例えば、

- 間違っていると思ったことに「それは違うと思います」と意見を言う
- いじめられている人を助ける
- 自分の失敗を素直に認めて謝る
- 苦手なことや新しいことに挑戦する
- 困っている人に声をかける

こういったことはどれも、「失敗するかもしれない」「嫌われるかもしれない」「恥ずかしいかもしれない」という不安を乗り越えて行う行動です。

八小の皆さんは、ぜひ「勇気の人」になっていって欲しいと思います。

今週の水曜日には、五小、花小、花南中の先生方が、皆さんの学びを見に来られます。勇気を出してたくさん手を挙げて、元気に学んでいる姿を見ていただきましょう。